

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 27 年 12 月 20 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490100397		
法人名	医療法人 好縁会		
事業所名	認知症対応型 共同生活介護 グループホームふれあい 戸坂山根		
所在地	広島市 東区戸坂山根1丁目 1-19 (電話) 082-220-2050		
自己評価作成日	平成27年11月15日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=3490100397-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成27年12月11日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

ご利用者・そのご家族とのつながりを第一に、職員はご家族がどのような思いで施設に大切な人を任せてくださっているのか、その思いを大切にケアにつなげていくことを、最重要課題としています。ここに来てよかったと思っただく。ご本人に課題が生じた時は、ご家族と共にその課題が好転できるよう考え、またよかったことも御一緒に喜んでいただけるよう、家族と離れて暮らされていても共に生活していただいているよう、密に連絡を行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、平成24年春開業のグループホームである。閑静な住宅街に立地し、近隣に商店やスーパーマーケット、JRの駅もあるなど、利便性が高い地域である。事業所の外観は、周辺の住宅環境に溶け込み、「施設らしさ」を感じない、自然なたたずまいである。事業所では、本人の思いや家族とのつながりを大切にしているため、職員は本人の状況を把握し、面会時等に、どの職員でも家族に現状について説明ができるように心がけている。

広島県内に複数の拠点を持つ医療法人グループに属しており、職員の能力向上のため、「マイスター制度」というグループ独自のキャリアアップ制度が導入されている。また、二つ合わせると六角形になるテーブルや、活動座位が保てる低い椅子など、設備にも工夫がなされているほか、「生活づくり10カ条」という、その人らしく生活してもらうための様々な取り組みが行われている事業所である。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人の理念を各職員が理解し、生活10か条を基に、その人らしい生活を送っていただけるよう実践している。	法人の理念や、その人らしく生活するための「生活づくり10カ条」に基づく介護サービスや、法人内マイスター研修制度が確立されており、管理者と職員はその考えを共有して、実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	近所のスーパー、理美容、八百屋にご利用者と共に出かけ、地域との交流を図っている。また年に一度の福祉のひろば祭りを開催し、近隣福祉施設、地域との交流の場を設けている。	事業所の玄関に利用者の表札が掲げられているほか、地域のゴミ拾いなどの活動にも参加している。近所のスーパー、理美容院に出かけたり、八百屋との交流が日常的に行われており、事業所が地域の一員として交流がなされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	近隣の方から相談等あった場合、専門職の立場からアドバイスを行ったり、見学に来られた方に対して分かりやすく説明を行う様、誠意を持って対応を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	戸坂グループホームと合同で開催をしており、グループホームでの取組み等について報告を行っている。地域の方、御家族からの意見を参考に、サービスの向上に活かしているよう努めている。	近隣のグループホームや介護施設や作業所からも運営推進会議に参加があるほか、町内会長など地域役員からも意見を聴取し、地域の公民館祭りへの参加がスムーズにいくようになった事例もある。多くの意見を得て、事業所の運営や近隣との触れ合いのきっかけづくりに活用がなされている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	認知症介護アドバイザーの資格を有する職員が異動・退職のため、資格を持っている職員がいなくなった。今後、資格取得に向けて職員を選考し、いち早く地域へ貢献できるよう努めたい。	地域包括支援センターを通じて事業所の空き状況の問い合わせがあったり、運営推進会議等を通じて日頃から情報交換を行っており、協力体制が築けるような努力がなされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束について研修を行い、施設内でも定期的に重要性について話し合いの場を設けている。ご利用者の自由を阻害することがないように、施設外への外出も、希望があった際には安全に配慮しご本人の意思を尊重している。	身体拘束防止のための研修が、事業所内や法人内でも行われているほか、職員から普段の介護状況や接し方が拘束に該当しないかどうか、日頃から職員間で話し合う習慣ができています。現在事業所内において、拘束は行われていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修に参加したり、虐待防止に関しての重要性を話し合う場を設けている。また、日々の業務の中で問題事例が出た場合は、早急にカンファレンスを行い、虐待の防止を全職員で徹底できるように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護等制度に関する内容は、研修に参加し習得している職員と理解の浅い職員との間に知識の差が出ている。また、新しい職員に対しても、学ぶ機会を作る等努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の際、内容について、わかりやすく説明を行い、ご本人と御家族が納得されるまで、相談や説明に応じている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会の場を設け、施設と御家族の意見交換の場を設けると共に、普段から連絡を密に行い、御家族と共にケアを行っていただけるように努めている。また行事等にも、積極的な参加を募るようお声掛けを行っている。	利用者一人ひとりに「幸せ計画書」を作成し、利用者の思いや意向を聞き取る中で、運営に関して改善できるところを検討している。また、家族からは面会時や電話などの機会を活用し、意見を収集しており、意向や要望の把握に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>リーダー会、フロアカンファレンスを定期的に行い、職員の意見交換の場を設けている。またその中で出された意見を管理者にあげ、具体的な対策を練ると共に、職員全体で問題解決に向け、話し合いの場を設けるようにしている。</p>	<p>月に1回、リーダー会やフロアでのカンファレンスを行っており、管理者を中心に随時意見交換を行い、事業所内における細かな問題を共有し、具体的な改善策を話し合っている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>法人内で評価基準が明確に定められており、職員の勤務状況や努力実績を給料や、役職等に反映できるようにしている。また職員の思いや意見を出来るだけケアに生かしていき、達成感を味わうことが出来るようにしている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>法人内に教育研修部もあり、経験年数や職員の能力に応じた研修を受けられるようになっている。また、職員が個々に抱えている自身の課題も教育研修部に相談でき、各自の成長につなげている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>「福祉のひろば」では他事業所と交流を図りながら、意見交換の場が確保できている。しかし、全職員が参加することは困難な為、今後そのような場が設けられるようにしていきたい。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>初期面接時には、ご本人の抱えている思いをしっかりと聞き、なるべく具体的な案を提示し、安心していただけるように努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	御家族の抱えている思いを把握し、それを解決すべく、職員と話し合いの場を設け、具体案を打ち出し、御家族の納得いくまで話をするように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	面談の際、その方のニーズを把握し、専門職も交え、問題解決に向けた提案を行っている。また、グループホーム以外のサービスの提案も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	『共にある』と言う考えを念頭に置き、ご利用者が主体となり、職員も一緒に生活を送るといった関係性を築けるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	御家族の思いを職員が共有し、生活の場での課題を共に解決できるよう関係性を築いている。最近の出来事、何を喜び何に涙したのか。些細なことも報告し、離れて暮らしている御家族とご利用者が、常に近くに感じていただけるよう連絡を取り合っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	『幸せ計画書』を作成して、馴染みの場所や人の把握をし、実際にその場所に行けるよう、人に会えるよう積極的に支援に努めている。またなじみの方が、面会に来られた際は、気兼ねなくいつでもお越しくださるよう、職員の接遇にも配慮している。	「幸せ計画書」を作成し、一人ひとりの馴染みの関係が、継続できるような支援が行われている。その結果、お坊さんの来訪やミサに行くことで精神的に安定したり、思い入れの深い神社への参拝や、河川敷や馴染みの場所を散歩するなど、本人がこれまで大切にしてきた関係が途切れないよう支援がなされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	午前中に、両フロア合同での遊びりセッションを行い、利用者間のかかわりの場を設けている。また食事をする際の席の配置に配慮し、専用の机を置き、職員も一緒になることで、ご利用者間のコミュニケーションの架け橋を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	利用者が、亡くなられて契約が終了しても、御家族に対して、施設行事の参加をお声掛けしたり、季節ごとの挨拶文をお送りしている。その際、生前のご利用者の思い出を職員と話したりと、良い関係が続くように努めている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	『幸せ計画書』を作成する際、ご本人の生活歴や希望をしっかりと把握し、ケアに活かしている。また出来る限り意思を尊重し、職員全体で実現に向け取り組むようにしている。	一人ひとりの思いや意向を把握するために、本人の生活歴を把握し、心身の活性化につながる「幸せ計画書」を作成し、本人本位の介護方法を構築するために、職員全体で話し合いがなされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時に御家族、ご本人のお話を基に、ライフストーリーを作成している。また、入居後も情報収集を行いながら、得た情報は職員全体に周知するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	法人内の状態レベルシートを活用しながら、心身の状況について、職員全員が把握するようにしている。また身体的・精神的に不安のある方は、適切に看護師と連携を取り、問題解決に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>介護計画作成に当っては、初めにご本人・御家族とカンファレンスを行い、希望を取り入れた計画を作っている。また、専門的立場から、その方にあったケアを出し合い、担当スタッフが中心になって、全員で作成にあたっている。</p>	<p>本人の意向を把握した上で、介護計画を作成し、「幸せ計画書」に基づき、日常の介護計画に落とし込んでいる。日々のモニタリングにおいても、スタッフが専門的見地から意見を出し合い、現状に即した介護計画に、随時修正がなされている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>個別記録は、全スタッフが確認することを徹底している。その中で課題がある場合は、必要に応じて個別記録記載内容を活かしながら、介護計画の見直しを行っている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>医療面では医師・看護師・歯科医師等と連携を行い、介護現場に活かしている。また、管理栄養士やその他外部からも助言を貰いながら、サービスに反映している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>周辺の医療、消防、警察と連携を図り、安全で快適に生活できるようにしている。また、社会福祉協議会や地域のタクシー会社、理髪店や生鮮食品店、作業所等にも、グループホームを知って頂いているため、緊急時には連携協力頂けるような関係を構築している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>月に2回の定期往診と月に1回の個別往診を行い、医療との連携を図っている。その他、救急時には、かかりつけ医に連絡をし、必要に応じて専門病院の受診をスムーズに行えるようにしている。</p>	<p>事業所の協力医の訪問診療により、利用者の適切な医療の確保が図られているほか、希望するかかりつけ医や専門医受診においては、家族対応により受診が円滑にできるよう、事業所と医療機関で連絡を取り合うなどの支援がなされている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	法人内の訪問看護師と密接に連絡を取り合い、急変時にもスムーズに対応が出来るよう連携を取っている。また、日々の医療的な不安等にも適切なアドバイスを貰いながら、ケアに努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際、こちらから出来る限りの情報を提示している。また入院中も定期的に面会や病院関係者と連絡を行いながら状態の把握をしている。退院時には担当看護師を交えカンファレンスを行い、グループホームに戻られてからも安心して生活を送っていただけるよう連携を図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	終末期ケアを行っており、入居時には、御家族の希望を伺っている。具体的には、終末に入った場合は、御家族の希望を再度伺い、医療とさらに密接に連携を取っている。また週に1回以上の職員間でのカンファレンスを行い、全体で終末期ケアに臨んでいる。	利用時に、終末期における事業所の方針を説明、延命など家族の希望の聞き取りを行っている。実際に重度化した場合は、医師や介護職を交えた話し合いを行い、家族と方針の共有を行っている。実際に終末期のケアも行っており、定期的な職員カンファレンスにより、事業所全体で終末期に向けた支援がなされている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	法人内で消防署に協力を頂き、救命講習を開催している。その他、医師や看護師からの指導をもらい、緊急時の対応がスムーズに行えるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回、消防署立会いの下で避難訓練を行っている。長期避難が必要な場合は、法人内施設と連携をとり協力をもらっている。地域からの協力も頂ける様定期的に運営推進会議の場を利用し、協力の声掛けを呼びかけている。	年2回、消防訓練を消防署員立会いのもとで行っており、昼間想定と夜間想定で、それぞれなされている。消火器の取り扱いの訓練も行われているほか、避難経路や外階段は広めに確保されている。また、緊急時には、法人内の複数の事業所間において、職員や物資などを協力し合う体制が整えられている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	プライバシーの保護には最大限配慮を行っており、排泄・入浴・更衣等カーテンを利用し、羞恥心を守るケアを最重要に考えている。また言葉かけも配慮しているが、何気なく使っている言葉遣いで気になるときには、職員同士で注意をしよう心がかけている。	洗面台が廊下の少しくぼんだ所に設置されていたり、脱衣場やトイレ前には天井からカーテンが引けるようになっており、利用者の状況により、安全性の確保のため扉を開けた状態でもプライバシーが、確保できるような設備になっている。また、言葉かけにおいても利用者の尊厳に配慮した工夫がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	出来る限りご本人の思いを伺いながら自己決定できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	起床・就寝・食事時間等、ご本人のペースを優先しながら、一日のリズムが崩れないよう配慮しながら対応をしている。また外出、嗜好品も希望に応じている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	化粧がお好きな方は、使いなじんだ化粧品を用意し、ご本人の希望があったときは、対応をしている。また、服を新しく新調するときは、御一緒に買い物に行くか、難しい場合は、お好きな柄・色を伺い用意するようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	献立を立てる際、ご利用者の希望を取り入れながら対応するようにしている。また、調理から片づけまで手伝いが可能方には、職員と共にキッチンに立っていただいている。食事中は職員も共に食べ、楽しく食事が取れるよう配慮している。	夕食は手作りで、近くのスーパーへの買い出しや、調理、片付けなどを利用者と一緒に行うようにしている。また、六角テーブルにて、職員と一緒に食事をとることで、隣との程よい位置、角度が確保でき、利用者が楽しんで食事ができるような配慮がなされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	嚥下状態を把握しながら、その方にあった形態で提供をしている。また水分量も活動量、体型、病歴等を考慮し、個別に一日の目標水分摂取量を定めている。水分摂取が困難な方には、ゼリーにして工夫しながら水分を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後口腔ケアを行い、お一方ずつに合う口腔ケアを行っている。必要に応じて、訪問歯科を利用し、口腔内の健康と保清に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	出来る限りオムツの使用はせず、一人ひとりの排泄パターンをモニタリングし、排泄パターンの把握を行っている。それをもとに誘導を行いながら、出来る限りトイレでの自然排泄が、行えるようケアに努めている。	その日の水分量や活動内容もチェック項目に入れた管理表で、排泄パターンも把握しており、排泄パターンのほか、水分や運動量も把握し、適切なトイレ誘導により、排泄の自立支援がなされている。その結果、リハビリパンツや布パンツとパッドの併用などに改善し、オムツを利用している利用者はいない現状である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分摂取や食事の形態に配慮している。また、午前中に遊んだりリテーションを行い、体を動かし自然排便を促す環境を整えている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めず，個々に応じた入浴の支援をしている。	ご利用者の希望を最優先に入浴をしていただき、日常生活動作の状態に関わらず、安心して気持ちよく入浴していただけるように配慮している。そのために、職員の入浴介助のスキルを上げるため、研修に参加しながら技術の習得に努めている。	入浴が苦手な利用者には個別に入浴時間を工夫したり、声かけを工夫するなどして入浴が楽しむことができるような支援がなされている。最低でも週2回は入浴が確保できるようになされている。また、利用者が安全に入浴できるよう、入浴介助技術の研修も積極的に行われている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	フロアで過ごす時間が多い方は、ソファ等を使用し、安楽な姿勢で過ごしていただけるよう適時対応している。また、日中は出来るだけ活動していただき、夜間安眠できるようメリハリある生活を送っていただけるように対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	定期往診の時に、薬の変更があった場合は、全職員薬情に目を通し、その後の経過等モニタリングを行う様にしている。作用、副作用含め状態の変化をドクターに報告しながら、適切に服用していただけるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	嗜好品に関しては、ご本人の希望、御家族の希望に沿って購入、提供している。家事や植物の世話など得意とされていることに関しては、職員と共にやる機会を設けている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日常の買い物は、職員と共にご利用者も御一緒していただいている。また、思い出の場所や行きたいところも幸せ作り計画書やご本人の会話から聞き出し、外出できるように支援を行っている。	近所にスーパーがあり、一日置きに買い物に出かけているほか、ドライブ、外食に出かけることもある。「幸せ計画書」に基づき、外出を行うことが本人の生活の質向上に結びつく場合は、個別でも積極的に支援がなされている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	現在、ご利用者は金銭を自己管理されている方が無く、個人的購入の希望がある場合は、立替と言う形をとっている。金銭所持の希望があった場合は、出納帳を作成し、職員も把握した上で、管理させて頂くようご本人、御家族と話をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>事務所にある電話で取次ぎを行っている。また、季節の挨拶状など、職員と共に作成し送るよう支援を行っている。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>匂い、湿度、室温等配慮しており、掃除場所の担当を決め、主に午前中に掃除を行っている。また季節ごとに職員手作りの掲示物を飾ったり、以前の思い出の写真を掲示している。</p>	<p>事業所内を清潔に保つため、レクリエーションを1つのフロアで行っている時に、他のフロアでは集中した清掃を行い、清潔な環境を維持するよう努めている。また、飾りつけや掲示もフロアごとに利用者の希望を受けながら、行うことで、居心地の良い雰囲気づくりに努めている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>共有スペースの席は、同席者全員の顔が見渡せるよう配置している。また、居室でゆつくりと過ごされる方やフロアで少数人数で過ごされる方など、その方にあった空間を提供できるように配慮している。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入居時には、なるべく自宅や長年慣れ親しんだ物をお持ち頂ける様、声を掛けさせて頂く。また、新しく購入する際は、ご本人の好みを伺い柄や色を決めるようにしている。</p>	<p>居室には、危険物以外は持ち込み可能であり、楽器も時間を決めることで使用できるようにしたり、オーディオ類を居室に持ち込んでいる利用者もいる。なるべく入居時に長年親しんだものを持ち込んでもらうことで、本人が居心地よく生活できるような工夫がなされている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>通路から各居室が見渡せ導線に配慮した造りになっており、使用するイスもご本人の下腿長に合わせて使用していただいている。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 GHふれあい 戸坂山根

作成日 平成28年 1月16日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	52	面会時に訪問者から匂いや環境整備について指摘があり現在改善に向けて取り組んでいる。	環境整備を徹底し清潔で心地よい空間を保持し続ける。	現在行っている清掃の定着と感染予防を念頭に置いた衛生管理を行う	6ヶ月以内
2	13	現在経験年数の浅い職員が多くまた定着がなされていない。	職員の定着を図り質の良いケアを提供できるよう教育する	一人ひとりの思いの尊重と、達成感を共有していけるよう教育していく	6ヶ月
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。